

みんなと一緒にできているから大丈夫！？

園や学校を訪問すると、「みんなと一緒に行動できていますよ。」「特に気になる行動はありません。」「本人からも訴えがないので大丈夫だと思います。」という言葉をよく聞きます。問題なく過ごせているように見えても、聞き取っていることばの数、情報量に着目すると、「学習の積み重ね」ができていない可能性があります。

聞き取りの状況は学びの質に直結します

先生の声はしっかり聞こえるけれど、友達の発表は何を言っているのかわからない。

話しかけられたことに気づいた時には、もう話が終わっていた。

マイクの声（スピーカーの音）だと聞き取れない。

突然話しかけられると答えられない。

グループワークだと他のグループの声が気になって集中できない。

テストはまあまあできるのにリスニングテストは得点できない。



小学校高学年になると、自分のきこえのことや聞き取りにくい状況などを周囲に伝えられるようになってきます。これは、これまでの失敗やトラブルなどの様々な経験をもとに自分自身を客観視できるようになった証であり、高学年になってから問題が発生したわけではありません。難聴児本人が学習上の困難さを感じるようになった時には、すでに深刻な状況に陥っていることが少なくありません。

「学びの質」という言葉から、小学校入学後の授業をイメージするかもしれませんが、小学校1年生の学習が成立するためには、幼児期にいろいろな経験をし、たくさんの言葉を交わし、ことばで理解し、ことばで表出する力を蓄えておく必要があります。また、小学校入学後も授業場面だけでなく、友達との会話や休日の活動、習い事やクラブ活動など日々の生活の中に、これからの学習の基礎となる体験や知識などがたくさんあります。

これからの学びを支えるために、身の回りで起こっていること、体験したこと、気持ち、考えていることなど、まずは大人が言葉にして伝えるようにしましょう。

「聞こえる」と「聞き取れる」は別物！

補聴器や人工内耳を装用すると、ないときに比べるとよく聞こえるようになります。しかし、聞こえる人たちと同じきこえになるわけではありません。環境音や周囲の話声など周囲の環境によって聞き取りの状況は大きく左右されます。せっかくの言葉がけも子ども達の耳に、心に届かなければ意味がありません。先生方の言葉がけがきちんと伝わるよう、聞き取れる環境を作ることも大切です。聞こえた、伝わった部分に安心するのではなく、聞こえていない、伝わっていないことがあるかも、という目をもって子どもたちを観察してみましょう。

研修会実施報告

夏休み中に難聴児の支援にかかわっている先生方を対象に研修会を行いました。午前は主に小・中・高等学校の先生方対象に、きこえの特徴と学校生活での配慮や学習支援を中心とした内容、午後は主に幼稚園・保育園の先生方を対象に、きこえと言語発達、コミュニケーションを中心とした内容で実施しました。

参加人数	浜松市	湖西市	磐田市	袋井市	掛川市	菊川市
幼稚園保育園等	4	0	2	2	2	0
小学校	9	0	0	1	1	1
中学校	3	1	0	1	0	0
県立高等学校	1	0	0	0	0	0
特別支援学校	9	0	0	0	0	0
行政機関	0	3	0	0	0	0

この研修会とは別に、浜松市の小学校では全職員対象に難聴についての校内研修を実施していただきました。

いずれの研修会でも、難聴疑似体験や補聴器体験等を通して、難聴児の気持ちを想像したり、聞き取りの困難さや支援の必要性を感じたりしていただくことができました。

御参加いただいた先生方、ありがとうございました。



浜松は遠いな・・・ 訪問支援ご利用ください

園・学校訪問・・・対象児が1人でも大丈夫です

難聴児が在籍する園や学校に訪問します。難聴児の生活や学習の様子を観察したり、担任の先生方と情報共有したりします。

研修会（先生方など支援者向け）

きこえや補聴器・人工内耳、補聴援助システムの使い方、難聴児への支援方法や学級づくりなどの講座、体験研修、ご希望の時間に合わせて実施できます。

難聴理解授業（児童生徒向け）

総合的な学習の時間の学習や難聴児がいる学級・学年での理解啓発授業など、ろう（聞えない）ではなく難聴（聞こえにくい）について理解を促す授業のお手伝いをします。



連絡お待ちしております

お問い合わせ先
静岡県立浜松聴覚特別支援学校
TEL：053-471-8197
担当：教頭または連携コーディネーター